

昭和40年4月5日第三種郵便物認可
(旧「公衆衛生」)

2024年11月1日発行

第638号(通算)

発行:奇数月1日

会員購読料:1月10円(年間60円)
一般購読は別途送料

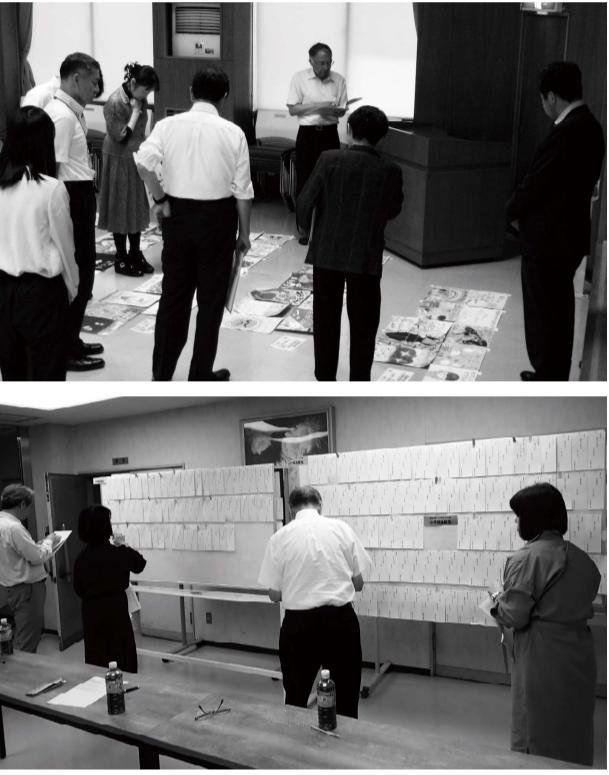
環境と健康

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

発行者

一般財団法人 ~みんなの命をまもりつけたい~
広島県環境保健協会
兼森 裕
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL <http://www.kanhokyo.or.jp/>

個性やオリジナリティ
第2回選考委員会で
10人の選考委員がポス
ターと標語に分かれ、
点、標語73点)が選ば
れました。



ポスター(上)、標語(下)の選考の様子

環境と健康のポスター・標語コンクール事業

36,868点の作品集まる

テーマに沿った内容であるかなどの視点で選考を行い、優秀作品124点(ポスター51点、標語73点)が選ばれました。11月22日に竹原市のホテル大広苑で開催する「第65回広島県公衆衛生大会」では、最優秀賞、特別賞受賞者と竹原市(開催地)の優秀賞受賞者を招待して表彰式を行います。作品と選考委員からのコメントの紹介、表彰状ならびにトロフィー、副賞の贈呈、会場では受賞作品の展示を行います。その他他の受賞者には、各公衛協を通じて表彰式を行います。また、参加した学校には『学校奨励賞』として図書カードを贈呈します。

当協会と公衛協が主催する「令和6年度環境と健康のポスター・標語コンクール事業」に、25公衛協が参加し、小学校217校、中学校68校から3万6千868点の応募がありました。それぞれの公衛協で実施した1次選考で744点が2次選考に推薦されました。さらに、10月2日に開催した「環境と健康のポスター・標語コンクール」第2回選考委員会で10人の選考委員がポスターと標語に分かれ、

瀬戸内海に面する海岸でも、特に海ごみ漂着量が多い尾道市因島梶ノ鼻海岸。海岸までのアクセスが困難で人の出入りがほとんどないごみの撤去作業が必要なことから、2025年(水)に実施しました。GSHIP会員向け清掃活動としては初めての平日開催で、4月14日(月・祝)に宮島包ヶ浦海岸で清掃活動を行いました。この日は、「広島の海まるごと体験フェスティバル宮島ボート」やトヨタ自動車(株)が主催する海岸清掃と同時に開催されました。団体17人の参加者が集まりました。少ない人数でしたが、参加者はやる気十分で、80分間の清掃活動で130キログラムのごみを回収しました。清掃後には、回収したごみの種類や梶ノ鼻海岸への漂着ごみの特性などに関する学習会を行い、海

洋ごみ削減に向けた意識の共有を図りました。**[廿日市市宮島包ヶ浦海岸]** 10月14日(月・祝)に宮島包ヶ浦海岸で清掃活動を行いました。この日は、「広島の海まるごと体験フェスティバル宮島ボート」やトヨタ自動車(株)が主催する海岸清掃と同時に開催されました。約300人の海岸清掃活動には、約200人が参加しました。会場には、1万人以上が訪れたほか、団体17人の参加者が集まりました。

今年度は23公衛協に助成を行っています。これらの活動を支援する助成を行っており、これらを活性化するため、公衛協でも、市町で独自に表彰式やイベントでの作品展示を行う

洋ごみ削減に向けた意識の共有を図りました。**[尾道市因島梶ノ鼻海岸]** 11月22日に竹原市のホテル大広苑で開催する「第65回広島県公衆衛生大会」では、最優秀賞、特別賞受賞者と竹原市(開催地)の優秀賞受賞者を招待して表彰式を行います。作品と選考委員からのコメントの紹介、表彰状ならびにトロフィー、副賞の贈呈、会場では受賞作品の展示を行います。その他他の受賞者には、各公衛協を通じて表彰式を行います。また、参加した学校には『学校奨励賞』として図書カードを贈呈します。

当協会と公衛協が主催する「令和6年度環境と健康のポスター・標語コンクール事業」に、25公衛協が参加し、小学校217校、中学校68校から3万6千868点の応募がありました。それぞれの公衛協で実施した1次選考で744点が2次選考に推薦されました。さらに、10月2日に開催した「環境と健康のポスター・標語コンクール」第2回選考委員会で10人の選考委員がポスターと標語に分かれ、

会員向け清掃活動を実施

平日・祝日開催で参加募る

22年度に引き続き、2回目のGSHIP会員向け清掃活動としては初

めの平日開催で、4月14日(月・祝)に宮島包ヶ浦海岸で清掃活動を行いました。この日は、「広島の海まるごと体験フェスティバル宮島ボート」やトヨタ自動車(株)が主催する海岸清掃と同時に開催されました。団体17人の参加者が集まりました。

少ない人数でしたが、参加者はやる気十分で、80分間の清掃活動で130キログラムのごみを回収しました。清掃後には、回収したごみの種類や梶ノ鼻海岸への漂着ごみの特性などに関する学習会を行い、海

洋ごみ削減に向けた意識の共有を図りました。この日は、「広島の海まるごと体験フェスティバル宮島ボート」やトヨタ自動車(株)が主催する海岸清掃と同時に開催されました。約300人の海岸清掃活動には、約200人が参加しました。会場には、1万人以上が訪れたほか、団体17人の参加者が集まりました。

今年度は23公衛協に助成を行っています。これらの活動を支援する助成を行っており、これらを活性化するため、公衛協でも、市町で独自に表彰式やイベントでの作品展示を行う

洋ごみ削減に向けた意識の共有を図りました。

[廿日市市宮島包ヶ浦海岸] 10月14日(月・祝)に宮島包ヶ浦海岸で清掃活動を行いました。この日は、「広島の海まるごと体験フェスティバル宮島ボート」やトヨタ自動車(株)が主催する海岸清掃と同時に開催されました。約300人の海岸清掃活動には、約200人が参加しました。会場には、1万人以上が訪れたほか、団体17人の参加者が集まりました。

今年度は23公衛協に助成を行っています。

これらの活動を支援する助成を行っており、これらを活性化するため、公衛協でも、市町で独自に表彰式やイベントでの作品展示を行う

洋ごみ削減に向けた意識の共有を図りました。

[尾道市因島梶ノ鼻海岸] 11月22日に竹原市の

ホテル大広苑で開催する「第65回広島県公衆衛生大会」では、最優秀賞、特別賞受賞者と竹原市(開催地)の優秀賞受賞者を招待して表彰式を行います。作品と選考委員からのコメントの紹介、表彰状ならびにトロフィー、副賞の贈呈、会場では受賞作品の展示を行います。その他他の受賞者には、各公衛協を通じて表彰式を行います。また、参加した学校には『学校奨励賞』として図書カードを贈呈します。

当協会と公衛協が主催する「令和6年度環境と健康のポスター・標語コンクール事業」に、25公衛協が参加し、小学校217校、中学校68校から3万6千868点の応募がありました。それぞれの公衛協で実施した1次選考で744点が2次選考に推薦されました。さらに、10月2日に開催した「環境と健康のポスター・標語コンクール」第2回選考委員会で10人の選考委員がポスターと標語に分かれ、

腸活のすすめ



7月27日(土)、28日
日に、TEAM-MAT
Eひろしま学習・交流会
(第1回)「ツールづくり」
を開催し、6団体13
人が参加しました。
TEAMや推進員が、
者自ら企画製作し、泊
りを完成させました。
そのうち、3つのツー
ルと製作団体をご紹介

り、自分自身の安全を
防災をテーマにした
カルタで、自助共助公
助によって色分けをし
ています。カルタの裏に
は解説が記載されてお
り、自分自身の安全を

②脱温暖化福山中央地
域協議会
「防災かるた あぶ
にやーで広島県」

9月25日に、府中町
立府中小学校4年生を
対象とした環境学習会
「食品ロスを考えよう」
で活用し、大変好評で
ありました。

9月5日(木)、6日
(金)に、令和6年度専
門研修「防災・減災コ-
ース(簡易トイレ編)」を
開催し、7月18日、19
日に開催された夏季大
学の内容をより深く

学で行われた分科会
を、より深めた内容で
実施しました。まず始めに、(特非)
簡単に必要なものを考える参加者
(上)、作成した簡易トイレを発表、意見
交流を行った(下)

ひろしまNPOセンター増田勇希理事よ
り、「能登半島地震から
見てきた水・トイレの課題」と題してご講演
いただきました。夏季大
学の内容に加え、広
島県の液状化の危険度
や水管の耐震性、ま
た、避難所に実際に設
置された簡易トイレの
事例などについて、写真
を交えて紹介されました。
体験学習では、凝固

剤の使用体験や簡易ト
イレの設置体験を行い
ました。凝固剤の使用
体験では、凝固剤の消
臭効果の検証のため、
香りをつけた色水を使
用了したところ、におい
が軽減されることが確
認できました。ただし、
袋の壁面などに飛散し
ていると凝固剤がかか
らず、においが残ってし
まうことが分かりまし
た。

また、参加者からは
「まずは我が家で簡易
トイレの備えをしたい」
などの感想をいました。
「イベントなどで簡易ト
イレの使用体験を実施
し、地域に広げていきたい」
などとの感想をい

た。また、参考に「
16日、17日に水と非常
食をテーマとした専門
研修「防災・減災コ-
ース」を開催する予定です。
(地域活動支援センター)

環境と健康

ツールづくり研修を開催 6団体が7つのツールを作成

①福山北部脱温暖化地
域協議会
「エネロスをさがせ」

します。ツールは貸出
グッズとして整備して
いますので、皆さまの
地域でもご活用ください。
日常の「マを漫画
風に描いたもの(左上
図)で、絵の中からエネ
ルギーのロスを探し出
すツールです。学習会
のアイスブレイクとし
て活用すると、参加者が
が発言しやすくなり、
省エネ活動の意識付
につながります。

守る取り組みの「自助
をしっかりと理解できる
ようになります。取
り札・読み札が各10
枚あるので、時間や人数によ
り調整が可能です。



ツール作製の様子

参加団体と作成教材の一覧

参加団体名	作成教材
広島市地球温暖化対策地域協議会	・コンポストのひみつ
くれ環境市民の会	・環ちゃんと省太ちゃんのもったいない!食品ロスの話
布野の食と脱温暖化を考える会	・山野草を食べよう! ~これ食べられる?春編~
福山北部脱温暖化地域協議会	・エネロスをさがせ
門田地球温暖化対策協議会	・エコチャレンジ 子ども学習会 ・環境マークかるた
脱温暖化福山中央地域協議会	・防災かるた あぶにやーで広島県

子ども服の譲渡会(カインズ広島LECT店)開催

着まわしでCO₂削減

10月5日(土)に、ゼンドラ株式会社、カインズ広島LECT店と協働で、子ども服の譲渡会を開催しました。当日は譲渡会のブースに500人以上が来場され、多くの人でぎわいました。

子ども服の譲渡会は、子どもの成長に伴い、着られなくなった子ども服を、必要とされている方に無料でお譲りするイベントです。傷や汚れのないもので、ご家庭で洗濯済みの子ども服を対

象として回収し、譲渡しました。

今回の譲渡会で譲渡した服の数は753枚で、CO₂削減効果は9,601kg-CO₂(※)でした。

譲渡会に参加された方からは、「保育園で服の枚数が必要なため、大変助かります」「とてもいい企画だと思います。また是非やって欲しい」「着なくなった服を持って来たい」などの声がありました。

国内で手放された服(おとな、こども合わせた全体衣類)は、その66%が焼却・埋立処分されており、その数は年間約45万トン、1日当たり1,200トンにも及びます。

今ある服を長く着ることや、みんなで着まわすことはCO₂削減につながる、環境にやさしい取り組みです。

大切な資源が循環する暮らしを皆さんと一緒に作っていきましょう。

(脱温暖化センターひろしま)



※環境省ホームページ「サステナブルファッション」に示されている、服1着当たり生産の際に排出されるCO₂排出量25.5kgを算出根拠とし、今回の対象は子ども服のため、排出量を25.5kgの半分の12.75kgとして算出しました。

安全に避難するため、今回は「経路」と「場所」を急ぐではないでしょか。少しでも安心の人が自宅からの避難を急ぐのではないか。余震が発生したら、停電や断水が発生します。余震の不安を考えると、多くの方は「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。能登半島地震に続き、8月には「南海トモグラフ」が発表されました。

地震発生時の避難 複数の選択肢を想定



所について考えたいと思います。まず家の中の経路です。倒れたタンスで扉が開かないといふことがないよう、扉、通路、玄関など、避難の導線は確保できているか、家具の転倒防止対策が施してあるか、最初に確認してください。

次に避難所への経路です。通常は使い慣れた道を通ると思います。しかし、倒壊した家屋・電柱・ブロック塀で道が塞がっている、液状化などで道路が陥没・隆起しているなど、想定外の事態で道が通れないことがあります。そんな場合に備え、複数のルートを知つておくことも大切です。

一方、避難所に行けない、行くことに不安を感じる、ようやく着いた避難所でも、何かの事情で十分な安心

所について考えたいと思います。まず家の中の経路です。倒れたタンスで扉が開かないといふことがないよう、扉、通路、玄関など、避難の導線は確保できているか、家具の転倒防止対策が施してあるか、最初に確認してください。

安全を感じられないと思う。避難の時間帯、被害状況、家族構成などにより取れる行動は違うと思いますが、そんな場合は避難所以外での避難も視野に入れることがあります。



液状化で隆起したマンホール

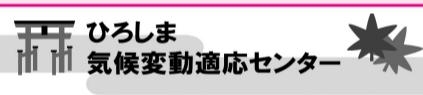


庭に建てられたインスタントハウス

保護犬・猫を飼うという選択肢



高温により品質が低下 高温耐性のある品種を奨励



(15)米への影響

9月になっても猛暑日が連続するなど、今年も暑い夏になりました。

食卓に欠かせない米が、気温上昇による夏の高温の影響を受けています。水稻は穂が出てから20日間程度の期間（登熟期の前半）に異常な高温状態に置かれると、米の白濁（白未熟粒）が発生しやすくなると言われており、品質低下の一因となります。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）によると、極端に気温が高い年や一部地域では白未熟粒の発生の他に、収穫量の減少も報告されています。

これまで、広島県内でも、特に標高100m以下の地域で栽培されている「ヒノヒカリ」で品質低下が顕在化していたため、平成26年度、高温による



登熟期に高温条件にした米（左）と普通栽培の米（右）。左には米の白濁が多くみられる。（品種：山田錦）

（写真提供：県立総合技術研究所農業技術センター）



「萌えいぶき」と試験醸造された日本酒

米の品質低下が発生しにくく、栽培しやすい特性を持つ「恋の予感」が、南部（標高150m以下の地域）の奨励品種に採用されました。他府県においても、高温の影響を受けにくい「きぬむすめ」、「にこまる」などの高温登熟耐性品種が奨励品種に加えられています。

その他、日本酒原料の酒米にも高温による悪影響が生じています。そこで、本県では、県立総合技術研究所（農業技術センター、食品工業技術センター）、農研機構西日本農業研究センターなど、県内の6機関が共同研究を行い、品種改良によって高温への耐性を持つ酒造好適米を育成しました。その米は「萌えいぶき」と命名され、令和5年度から本県の奨励品種に採用されています。

高品質で豊かな味わいの酒質となりやすい「萌えいぶき」を原料とした日本酒が、少しずつ店頭に並び始めています。ぜひお試しください。

（ひろしま気候変動適応センター）

県動物愛護センターにおいて、毎週土曜日に開催する犬猫譲渡会では、毎週多くの方にご来場いただき、昨年度は県が収容した犬猫のうち、約250頭が

犬猫も新しい家族として迎え入れていただけます。多く保護された犬猫が譲渡会を開催してお

り、民間で保護された犬猫が新しい家族として迎え入れていただけます。広島県では、平成23年度に県内の犬猫殺処分頭数が全国ワーストとなり、8千340頭の犬猫が殺処分されま

た動物慰靈碑（いつくしみの碑）があります。旧センターから移設してあります。碑に刻まれた「いつくしみ」は、弱く小さな存在である犬や猫のことをいたわる気持ち

を表したもので、皆さまも県動物愛護センターに来られる機会がありましたら、この碑を訪れ、手を合わせただければ幸いです。県としては、これら新しい動物愛護セ

ンターで譲渡の促進に取り組んでいきます。保護犬・保護猫を飼うという選択肢もあるということを知つただければ幸いです。（広島県健康福祉局 食品生活衛生課）



新しい家族として迎え入れていただけております。また、日曜日には民間の動物愛護団体やボランティアの皆さんも、譲渡会を開催してお

り、一方、私たちは過去に殺処分された犬猫がいたことを決して忘れてはいけません。

これまでに県動物愛護センターで亡くなつた全ての犬猫の靈を慰めるために、現在の動物愛護センターには、旧センターから移設してあります。碑に刻まれた「いつくしみ」は、弱く小さな存在である犬や猫のことをいたわる気持ち

を表したもので、皆さまも県動物愛護センターに来られる機会がありましたら、この碑を訪れ、手を合わせただければ幸いです。

保護犬・保護猫を飼うという選択肢もあるということを知つただければ幸いです。（広島県健康福祉局 食品生活衛生課）



旧センターから移設された動物慰靈碑（いつくしみの碑）



地球温暖化は大きな
環境問題の一つです。
2015年に採択され
たパリ協定では、産業

8月25日に安東公民
館で開催された、親子
を対象とした環境講座

(地域活動支援センター)
自然エネルギーをテ
ーマに地球温暖化につ
いて考えてもらうきつ
かけの一つとして、「か
るぴか」をぜひご活用
ください。

活用事例の紹介

ラボラ直径80センチ
メートル、晴天時の火力はガ
スコンロの弱火程度で
ス。重さ約3キログラム、パ
ソーラークッカー「かる
ぴか」の貸し出しを行ってい
ます。本教材は、自然エネル
ギーにどのくらいの力があるのか、体感する
機会はなかなかあります。

そこで、当協会では自然エネルギーを体感する教材の一つとして、「かるぴか」の貸し出しを行っています。本教材は、重さ約3キログラム、パ

ソーラークッカー「かるぴか」をぜひご活用ください。

太陽光の力を体感 地球温暖化について考えるきっかけに



⑧かるぴか

革命以前に比べて世界の平均気温の上昇を2度より十分低く保ち、1.5度に抑える努力をするという目標が掲げられ、世界規模で取り組みが進められています。

脱炭素の取り組みの一つとして、再生可能エネルギーへの転換が挙げられます。再生可能なエネルギーの中でも、太陽光や風力などの自然エネルギーは、近年



ベーコンが焼ける様子を観察する参加者（上）、かるぴかで加熱調理した卵（左）

広島県 『もったいない』をいつしょに 減らそう食ロス広島アクション

広島県では、減らそう食ロス広島アクションを展開しています。まだ食べられる食品を捨ててしまうなんて『もったいない』。「食品ロス」を減らすためには、一人ひとりの「アクション（行動）」が大切です。お家やお店で、みなさんができるところから始めてみませんか。



『減らそう食ロスキャンペーン』に
参加して、電子マネーをGET!!

《第1弾》小売店とお家でAction!

10月30日～12月31日

○手前どりキャンペーン

商品を手前どりして、棚に設置されているスイングポップもしくは掲出されているポスターから応募しよう!

○使い切りレシピキャンペーン

家で余りがちな食材や、野菜の皮や芯などを上手に活用したレシピを募集!

《第2段》飲食店でAction!

12月2日～1月31日

○食べ切りキャンペーン

注文したメニューを食べきり、店

食品ロスを減らす3つのアクション

使いキリス：食品を使い切る工夫をしましょう。

手前ドリス：すぐ食べるなら、期限の迫った手前の商品を選びましょう。

食べキリス：お店では食べきれる量を注文し、残さないようにしましょう。

舗のポップからサイトの応募欄に記入して応募!

～事業者の方へ～

広島県では、食品ロス削減キャンペーンを実施します。内容にご賛同いただき、参加協力ををお願いします。

キャンペーンについての詳細は、二次元コードより広島県ホームページをご覧いただき、減らそう食ロス広島アクション事務局までお問い合わせください。メール：info@hiroshimaken-food-waste-loss.com



（広島県環境県民局循環型社会課）

環保協の 環境生活 センター

④⑤微量分析課

PFASについて聞いていますか？

最近、ニュースで見かける機会が増えたPFASという言葉をご存知でしょうか。炭素とフッ素から構成される化合物で通称PFA（ビーフアス）と呼ばれており、数千種類もあると言われています。水や油をはじき熱に強いという特性から、幅広い用途で使用されてきましたが、現在は人体への毒性が明らかとなってきた

ための調査を進めているところです。環境中のPFASにFASが検出された事例があり、現在多くの自治体が実態の把握を試みています。PFAS（ビーフアス）は、PFOSおよびPFOA（PFAの一種）を水質の要監視項目に位置付け、指針値（50ナノグラム/リットル）を設定しています。水道水についても、厚生労働省がPFOSおよびPFOAを水質管理目標設定項目に位置づけ、暫定目標値として合計値50ナノグラム/リットルを設定しています。この目標値は「体重

50キログラムの人が水を毎日2リットル飲んだとしても、この濃度以下なら健康に悪影響が生じないと考えられる水準」とされていますが、PFASについては健康影響など情報収集段階のため、国内外の最新の科学的な知見をもとに見直しの検討も進められています。当協会では、環境中や浄水中のPFASの調査や測定を行っており、高度な分析技術が要求される微量分析において、これまでに培った技術と知識に新しい技術を取り入れながら、化学物質による環境リスクの少ない安全で安心な社会づくりに貢献していきます。

（微量分析課 三井 裕美）

